

平成28年門真市議会第3回定例会

所 信 表 明

門真市長 宮本一孝

議長のお許しを得まして、平成28年門真市議会第3回定例会の開会に際して、今後の市政の推進について所信の一端を申し述べ、議員並びに市民の皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

まず、先日の市長選挙におきまして、24,004票という、およそ有権者の4人に1人が私に投票をいただきました。

多くの市民の皆様から負託を賜り、第5代門真市長の重責を担わせていただくこととなりました。心から、厚くお礼申し上げます。

はじめに、私は市議会議員、府議会議員として、門真市に深い関わりを持ち、愛着を持って、これまで市政の発展のために、微力ではありますが、全身全霊を注いでまいりました。

今回の市長選挙に市民の皆様が関心を持ち、多くの方が投票したという事実を重く受け止め、その責任と期待の大きさを実感しているところであり、その期待を裏切ることなく、市政に取り組む決意を新たにしているところであります。

市長としてその御期待にお応えするとともに、これまで門真のために汗をかき、貢献されてきた方々、また、これからこの地で生まれてくる未来の門真を担う方々、全ての市民の皆様のことを考えつつ、様々な声を聞き、答えは必ず市民の中にあるとの信念を持って、これからの市政運営を執り行う責任があると考えております。

この責任を、私が先頭に立ち、市職員と力を合わせながら、市議会をはじめ、市民一人ひとりの皆様とともに支え合い、助け合い、これからの門真市を作ってまいりたいと考えておりますので、格段の御理解御協力を賜りますようお願いいたします。

それでは、私が取り組んでまいります政策について申し上げます。

はじめに、選挙におきまして、「市長報酬20パーセントカット、退職金ゼロ」を公約に掲げましたが、報酬につきましては、既に25パーセントの減額としているため、変更は行わないこととし、また、退職金は継続してゼロといたします。

次に、市役所改革であります。

これは、市民目線で常に物事を考えることは当然ですが、組織的に仕事を進める上で、市のめざす方向をしっかりと共有しながら、なんでも議論できる風通しの良い組織風土を作り上げるとともに、政策を決めていく過程におきましては、政治的な中立性・公平性を徹底し、透明化することで分かりやすくするなど、誰もが理解・納得いただける市役所としてまいります。

また、お役所言葉をやめ、誰もが理解できる言葉づかいを徹底するとともに、失敗を恐れず、何事にも意欲を持ってチャレンジする職員を育成し、また、頑張る職員が評価される人事制度を確立し、優れた人材の育成に努めてまいります。

市民とともに汗をかく職員を育て、市民の声に耳を傾ける市役所をつくってまいります。

役所が変われば、必ず門真は変わります。

次に、子育て・教育についてであります。

本市の人口減少数は、平成27年国勢調査速報値におきまして、近畿

圏で最も高くなっており、生産年齢人口の減少と高齢化率の高まりが見込まれる中、子育て世帯の流入を促すとともに、流出を防ぐことが、バランスのとれた人口構成の実現へ向けた、喫緊かつ最重要の課題であると捉えており、未来への展望を持てるまちをつくるためには、子育て、教育に重点的な対策、特に隣接する大阪市の負けない教育・保育環境の創出が必要であると考えております。

まず、未来を担う子どもたちへの施策として、あらゆる手法を最大限活用し、待機児童ゼロを早期に実現いたします。

とりわけ、幼児教育や保育の無償化ならびに子ども医療費助成を高校生（18歳）までに拡大することにつきまして、早期に導入できるような具体の検討を進めてまいります。

次に、就学前の教育、保育と小学校との連携を強化し、中学校まで切れ目のない一貫した教育を実現するとともに、しっかりとした教育目標を立て、学校・家庭・地域が一丸となり、小中学生の学力向上をめざします。

次に、福祉政策についてであります。

市民の皆様の健康寿命を延ばし、生きがいある暮らしを応援するとともに、高齢者・障がい者を支える施策を充実させ、温もりのあるまちをめざしてまいります。

団塊世代の皆様が、本格的に高齢化を迎える中で、健康増進と予防医療の徹底、普及に努め、元気で長生きのまち・門真をつくります。

また、生活保護制度については、自立の助長を図るとともに、不正受給を徹底してなくし、法の趣旨にのっとった適正な受給となるよう

取り組んでまいります。

次に、これからのまちづくりについてであります。

まず、地域の絆を育み、地域の連携とにぎわいを創り出してまいります。

地域の歴史と伝統文化を大切にし、郷土愛を育むとともに、次の世代にしっかり継承していけるよう環境づくりに取り組みます。

また、「市民・地域がこれまでより自発的・主体的に行い、築き上げてこられた人的・歴史的な資源」、一方、「市役所が市民サービスの向上に向けて行っている多岐にわたる事業」、それぞれの様々な活動について相互に理解・協力を深めるとともに、市民の皆様と市役所との信頼関係を一層高めてまいりたいと考えております。

このようなもと、公民協働によるまちづくりをさらに前に進め、自分たちのまちは自分たちで良くしようとの機運を一層高め、世代間交流を充実し、地域のつながりを創り出してまいります。

次に、災害に強く、住みやすいまちづくりの実現に向け、門真の都市再生を推し進めてまいります。

密集市街地の解消に向け、住宅市街地総合整備事業を推進し、また、府内で最も公園面積が少ない現状を改善して良質な緑を増やすなど、市民が安全・安心を実感できる環境づくりに努めるとともに、大阪府営住宅を本市へ移管すべく協議することとし、その資源を活かした住みやすいまちづくりをめざしてまいります。

行政として、スピード感を重要視しつつも、10年、20年先の未

来を見据えた、中長期的な戦略を持ちながら、これまで申し上げた政策を、複合的に推進することで、まちのイメージを一新させ、門真の魅力アップにつなげてまいりたいと考えております。

これまで申し上げた政策を推進するには財政状況を正確に把握したうえで、一つひとつ実現することが肝要となってまいります。

国民健康保険事業特別会計で多額の累積赤字を抱えるとともに、歳入環境が厳しい状況にある本市にあっては、新たな財源の確保策を常に念頭に置き、新たな門真市をつくるための財源を生み出せるよう、現在、実施している事業を本当に市民が求め、市が実施しなければならない事業であるのか、また、事業効果を十分に考えず、漫然と実施しているものはないかの検証も必要であると考えております。

このため、前市政のおよそ10年間の事業について、改めて客観的な振り返り・検証を行い、今後引き継ぐべき事業と見直すべき事業を精査するとともに、ゼロベースでの事業の見直しを図り、その結果を踏まえた新たな出発として、より実効性のある事業へ再構築するべく、その方向性を見定めてまいります。

また、門真市の都市としての魅力を向上させるためには、大阪府の副首都化に向けた取組等、大阪府の動きを注視し、大阪府としっかりタッグを組んでいく必要があります。

私は、これまで約9年間、府議会議員として府の様々な取組に触れてまいりました。これらの経験と、その中で得た人脈を、これからの市政にもしっかりと活かしてまいりたいと考えております。

以上、所信の一端を申し述べさせていただきましたが、今後は平成29年度当初予算提出時の施政方針におきまして、より具体の施策をお示ししてまいりたいと考えております。

私は、市民の皆様にとってわかりやすい親しみのある市役所にするにより、わがまち・門真を誇りと愛着が持てるまちになるよう市政運営に取り組み、住んで良かったと本当に思っただけのような門真市をつくりあげてまいりたいと考えております。

とりわけ、子どもへの施策の充実を図り、子育てしやすく安心して暮らせるまちづくりにより、市民の皆様に住み続けていただけるよう施策を推進し、職員とともに皆様の御期待にお応えしてまいります。

むすびに、門真市は私にとって生まれ育った、そして多くの皆様に育てていただいた、かけがえのないまちであり、皆様にとっても大切なまちです。

これからの市長の任期となる4年間におきましては、このまちを市民の皆様が誇りと愛着の持てるまちへと変えてまいる覚悟であります。

今後とも、市民並びに議員の皆様におかれましては、市政推進に一層の御支援、御協力を賜りますよう心からお願いを申し上げ、所信表明とさせていただきます。御清聴まことにありがとうございました。